

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	NPO法人にじこども発達相談センターにじいろう 放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	2025年11月1日		2025年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	62	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2025年11月1日		2025年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職が多く在籍しており、専門的支援が行える	<ul style="list-style-type: none"> 保育士、言語聴覚士、作業療法士を含む専門職が多数在籍しているため、様々な視点から総合的な評価を行い、個々の発達状況やニーズに合わせた療育を行っている。 利用児の必要性に応じて小集団療育・個別療育を行っている。小集団グループでは、利用児の年齢や課題に対して利用グループを分けることで、それぞれにあった課題設定の中で活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門職による分析をもとに、ご家庭で取り入れられる支援方法をアドバイスするなど、家族支援にも今後さらに力を入れていく。 子どもや保護者の困り感や悩みに対して迅速に対応できるように、職員間での情報共有の方法や対応の統一を行っていく。 専門性向上のために、研修機会の充実や人材育成の整備も継続して行っていく。
2	療育を行うための環境や体制が整っている	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの特性や利用人数に合わせて、必要な職員数の検討をミーティング時に行い、安全に受け入れができる体制を整えている。 事業所内での療育活動だけでなく、外出活動や地域での体験活動等事業所外での活動も行い、さまざまな環境での経験を通して、社会性や生活力の向上につながる支援を行っている。 各委員会を設置しており、様々な視点から、安全・安心に運営できるような体制作りができていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も子どもの特性や利用人数に合わせて、必要な職員数の検討をミーティング時に行い、安全に受け入れができる体制を整えていく。 今後も事業所内外での活動を継続していく中で、活動内容の計画性やリスク管理体制を充実させた上で、様々な経験や支援につなげていく。 BCP、虐待防止、身体拘束適正化、感染対策、安全対策、情報公表委員会が中心となり、活動している。定期的に会議を実施し、スタッフへ共有できる体制を整備していく。
3	職員の学ぶ意欲が高く、職員の質の向上をおこなうための環境も整っている	<ul style="list-style-type: none"> 職員の質の向上を行うために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が充実している。また、職員が希望する研修や必要な研修に参加する機会が多くある。 職員一人一人の学ぶ意欲が高く、研修会への参加や自己研鑽に積極的に取り組んでいる。 学んだ知識や支援方法を現場で活かしており、支援の質の向上につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修で学んだ内容を事業所内で共有し支援の質の向上に努めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様へ向けた説明や情報提供の理解・周知に差が生じている	<ul style="list-style-type: none"> 日々の振り返りの時間の中で、保護者様への説明や情報提供、お子様の日々の困りごとや相談に対して助言等を行っているが、説明の機会が限られていることや、口頭での説明が中心となっているため、理解度や認識に差が生じやすい可能性がある。 面談やカンファレンスなどの機会を設けているが、事業所全体の取り組みが、すべての保護者様に十分に共有されていない可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> お便りや掲示物、配布資料、SNSなどを活用し、保護者全体に情報が継続的に届く仕組みを整えていく。 気軽に相談していただけるよう、日頃から保護者様とのコミュニケーションを大切に、声掛けや情報共有の機会を増やすことで、相談しやすい関係作りをすすめていく。
2	小集団グループの人員確保が必要	<ul style="list-style-type: none"> 利用人数に対して、スタッフの人員が少ないと感じる。 活動後の個別の振り返りの時間では、相談内容によっては十分な時間を確保することが難しいことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの特性や対応できる職員人数や環境面において、安全に受け入れができないと判断した場合は、受け入れ人数の調整や、活動内容を検討するなど、柔軟に対応していく。 相談内容にじっくり対応できるように、必要に応じて個別面談の機会を別途設け、相談や情報共有ができる体制を整えていく。
3	情報発信力の弱さがある	<ul style="list-style-type: none"> ペアレントトレーニング等、保護者向けに行っている取り組みの認知度が低い。 毎年行っている、保護者茶話会への出席が少ない。 SNSの更新が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> SNSでの発信や、待合室への掲示などで皆様に周知していく。 SNS委員会を中心に、インスタグラムの定期的な更新を行っていく。

事業所名 NPO法人にじ こども発達相談センターにじろ
放課後等デイサービス

公表日 2026年2月24日

利用児童数 62

回収数 20

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	1	1			活動内容や利用人数に合わせて、活動内容や活動場所を検討していきます。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	15	3		2		安全に療育が行えるよう、配置を検討しております。その日のミーティングなどで活動に入るスタッフについても打ち合わせを行っています。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19				1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20						
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	19	1					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19	1				法人ホームページに支援プログラムを公表しております。理念に沿って支援を行えるよう努めます。	
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	19	1				こどもの、育ちに合った活動を考えてくださっていると、感謝しています。	温かいお言葉ありがとうございます。今後も、お子様の成長や変化に寄り添った支援を行っていきます。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19	1					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	18	2					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16	3			1		毎月の活動プログラムを立てる際に、固定化されないよう職員間で検討しております。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	11	2	2		5		毎年、放デイのドッジボール大会への参加を行っています。
保護者 への 説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19	1				利用開始にあたり、重要事項説明書にて説明をさせていただいております。ご不明な点がございましたら、いつでもお尋ね下さい。	
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18	1			1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	18	1			1		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	19			1			活動後の振り返りの中で、お子様の様子を共有させていただきます。保護者様が安心して相談できるよう体制を整えていきます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18			1	1		必要に応じて面談や子育てに関する助言等を行っていきます。相談事などありましたら、いつでもお声掛けいただけたらと思います。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18	1			1	得意な所・いい所・苦手な所の説明や振り返りを毎回丁寧にしておりますが、時に私とは意見が反対の時もあり、説明で納得しましたがもう少し共感してから伝えてもらえるとショックが少し落ちたかなと思いました。いつも丁寧に対応して頂いているのにすみません。	貴重なご意見ありがとうございます。お気持ちに寄り添った支援が行えるよう、保護者様と向き合う姿勢を強化していきます。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	16	1	1		2		年2回のペースで保護者茶話会を開催しております。様々な情報交換の場としても大変貴重な時間となります。保護者様同士の交流の機会となりますので、ぜひ多くの方にご参加いただけたらと思います。
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19			1			必要に応じて面談や子育てに関する助言等を行っております。相談事などありましたら、いつでもお声掛けいただけたらと思います。相談しやすい体制作りを行っていきます。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19			1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	17	1		2	忙しい中だと思っていますが、SNSの更新が少しでもあると嬉しいです。	貴重なご意見ありがとうございます。今後はSNS委員会を中心として、定期的に更新できるよう努めます。毎月の療育の内容や子育てに関する情報も発信していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18			2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19			1		・BCP、虐待防止、身体拘束適正化、感染対策、安全対策、情報公表委員会が中心となり、活動しています。定期的に会議を実施し、スタッフへ共有できる体制を整備しています。また、避難訓練や不審者対応訓練も実施しております。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19			1		避難訓練や不審者対応訓練を実施しております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15	2	1	2	とても安心感がある様です。ありがとうございます。	温かいお言葉ありがとうございます。今後も、安心して利用できる事業所を目指します。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	19			1		お子様が安心して通所できるよう、環境や体制を検討し、整えていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	18		2		・活動内容、本人の気分等で日による為 ・嫌がる事なく通えているので、いつもありがとうございます。	貴重なご意見、ありがとうございます。お子様が楽しく通えるような、活動内容等を検討していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	20				いつもありがとうございます。長年お世話になっており、療育のおかげで出来ることが増えました。学校生活や他の活動との両立のためにも、毎週の実施だと通いやすく、有り難いです。にじいろの存在があって心強いです♡	温かいお言葉ありがとうございます。今後も、皆さまに満足していただけるよう努めてまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		NPO法人にじ こども発達相談センターにじいろ 放課後等デイサービス		公表日 2026年2月24日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・ 体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	1	・利用定員に対応できるスペースを確保している。	・個室が足りていないとかんじることもある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	2	・安全に活動できるよう、人員配置を行なっている。 ・少ないスタッフで対応できる活動の設定や、事前に振り返りの順番などを決めて行なっている。	・利用人数に対して、スタッフの人員が足りず、振り返りに十分な時間がとれていないと感じる。 ・小集団は、スタッフがまだいた方が良いと思う。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	2	カメラやモニターを設置し、活動室の様子や情報伝達がスムーズに行える。	・個室前は改善が必要だと思う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	0		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	年間アンケートを実施し、反省点の改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	様々な意見を出し合い、課題に対する改善策を話し合っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	2		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	研修への参加・資格取得の支援等が受けられる。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		必要に応じて検査を行い、支援計画に反映している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		検査を実施している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		目的や内容を設定した上で、チーム内でアイデアを出し合い活動プログラムを立てている。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		両事業所の取り組みを報告し、お互いの良いアイデアを取り入れている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		活動の流れや役割を確認し、チームとして活動している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		記録をしっかりと行い、正確な情報共有と検証ができるよう努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		専門職と連携しながら、必要な見直しを行なっている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	1	4つの基本活動についての理解を深め、今後の療育に活かしていく。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		課題を複数用意し、苦手なものにも挑戦してみる、どの順番で取り組むかなど決めている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		・情報共有や、専門職が同席するなど対応している。 ・会議前に申し送りをしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	1	・保護者様を介して、学校行事やその際の様子などを聞き取りしている。 ・必要に応じてケース会議を実施している。	・学校との直接的な連絡、情報共有はできていない（未経験である。）
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	1	・就学前から当事業所を使っているお子さんについては、当時の様子を知っているスタッフと情報共有している。 ・移行支援シートなどを活用している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	5		・今後そういった場面があった際には情報提供を行っていく。（未経験である。）
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	2		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	9		・放課後等デイサービスのドッジボール大会に参加している。 ・地域のイベントへの参加を行なっている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8	1	可能な限り参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		・振り返りの際に、活動や家庭での課題、また、どのように支援を行っていくのか共有を行っている。 ・活動後の振り返りの時間を設定し、お話を伺っている。また随時、相談やご要望の対応に努めている。日々の振り返りや個別支援計画作成時にはヒアリングを行うなど、保護者とコミュニケーションを取る機会をとっている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		ご相談内容を職員間で共有し、専門職や相談支援事業所と連携しながら適切な支援に努めている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9		・茶話会の開催や待合室を開放していることで、保護者間、きょうだい間のコミュニケーションが活発になっているのではないかと感じる。 ・茶話会を実施し、意見交換や保護者の交流の場を設定している。 ・茶話会を定期的実施している	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		・スタッフ間での報告・連絡・相談を迅速に行い、複数名で対応することで適切に対応できるように心がけている。 ・連絡体制を確認した上で、早急に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		ホームページや公式ラインを活用している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		機密文書の保管と処分は、厳重に行なっている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9			スタッフと保護者で、自分に関する話をしていないことをストレスに思う子どもたちもいるのではないと思う。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	5		現状では左記の取り組みはおこなっていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		マニュアルの整備と、研修や訓練を定期的に行なっている。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	1	事前確認を行なっている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		環境整備に努めることや、発生を想定した各種訓練を実施している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		事案の大小に関わらず報告と情報共有を徹底し、再発や未然防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		アンケートによる自己検証や、会議での話し合いの機会を、意識を高めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9				